

学修の流れ

1年次	2年次	3年次	4年次
海洋生物に関する基礎科目を幅広く学習し、さらにマリンフィールドサイエンスの基本的な知識・技術を身につけるため、下田臨海実験所で3泊4日の実習を実施。また、海洋生物展示学も受講できます。	すべての研究室で開講される学生実験を受講でき、多くの専門科目を学ぶことができます。これらを通して研究室を選択するための基礎知識を得ることができます。また、海洋生物展示学実習も受講することができます。	研究室に配属され、実習・演習を通してより専門的な学習を進めることとなります。同時に、企業や研究所、水族館などの学外機関・団体で実施する学外研修（インターンシップ）を受講することもできます。	所属する研究室で海洋生物学研究（卒業研究）に取り組み、得られた成果をもとに議論を重ねて結果を導く体験を通じ、専門分野を究めることができるカリキュラムが組まれています。

科目一覧

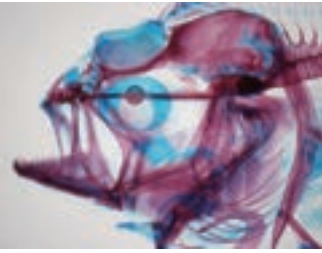


【共通系科目】
海洋生物学概論、海洋基礎実習Ⅰ、海洋基礎実習Ⅱ、水族館論、海洋生物展示学、海洋基礎生物、海洋基礎化学、海洋基礎物理、小型船舶操縦法実習、海洋生物展示学実習、海洋生物学演習Ⅰ、海洋生物学演習Ⅱ、海洋生物学実習Ⅰ、海洋生物学実習Ⅱ、海洋特別講義、水産経済学、バイオインフォマティクス論、水族統計学、学外研修、海洋生物学研究Ⅰ、海洋生物学研究Ⅱ



【生命科学系科目】
魚類学、無脊椎動物学、海生ほ乳類学、軟骨魚類学、生化学、生物機能化学実験、水族生理学、細胞組織学、生物機能化学、水族生理学実験、水族免疫学、栄養生理学

【生産科学系科目】
増養殖学、魚病学、水族発生学、漁業生産システム学実験、漁業生産システム学、魚病学実験、行動生態学、水産資源学、水族環境学、魚類繁殖行動学、魚群行動学、遺伝育種学



【利用科学系科目】
水産利用学、水産利用学実験、食品衛生学実験、水産食品化学、生物有機化学、海洋微生物学、食品微生物学、分析化学、食品加工学、ケミカルバイオロジー、食品衛生学

【環境科学系科目】
海洋環境学、プランクトン学、藻類学、海洋環境学実験、深海生物学、底生生物学、マリントキシン、水族生態学実験、水族生態学、海洋環境化学

将来の活躍分野

水族館や博物館、研究所、国家・地方公務員、環境アセスメント会社、製薬会社、建築会社、食品・飲料・乳製品などの製造・加工・流通に関わる会社など、海洋生物や海洋環境を対象とするバラエティーに富んだ分野・業界・職種で活躍できることを想定しています。海洋生物の飼育や展示、餌料についての多角的な学びは、養殖業や水族館産業への就職の懸け橋となることも期待されます。また、食品衛生管理者や食品衛生監視員、中学・高校の理科教員、高校の水産科教員といった進路もあります。中でも、水産高校や水産科の教諭になれる学科は、全国でもわずかしかありません。

充実した大学院教育との連携

海洋生物学の教員は、全員がそれぞれの分野の第一線で活躍する研究者です。文部科学省の科研費の高い採択率がそれを裏付けています。日本学術振興会の特別研究員に採択されて研究者をめざす博士後期課程の学生もいます。このような活発な研究への取り組みの下で大学院教育が行われており、学部生は実習や学生実験の受講時、研究室への入室後の卒業研究等での関わりの中で大学院生から多くの刺激を受け、将来の研究者をめざすことができる環境が整っています。

資格

【取得できる免許・資格】
中学校教諭一種免許状(理科)、高等学校教諭一種免許状(理科・水産)、食品衛生責任者、小型船舶操縦士免許(1級・2級)
【任用資格】(卒業後の実務経験により取得できる資格)
学芸員、飼料製造管理者、食品衛生管理者、食品衛生監視員、環境衛生監視員、家庭用品衛生監視員、環境衛生指導員
【受験資格】
化学分析技能士、バイオ技術者認定試験(中級・上級)

学科の最新情報はこちら



Instagram



Twitter



日本大学 生物資源科学部



海洋生物学科



本学科では、水圏生命科学、資源生産・利用科学および海洋環境科学の3つを柱として、海洋から淡水域まで、生息する生物とその環境を広く研究対象としています。

【問い合わせ】

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL・FAX:0466-84-3678



日大 海洋生物学科

検索

2022.09.16

イラスト:安育 俊(平成18年卒業)

海洋生物について 幅広く学べる学科

海洋生物学科では、プランクトンや魚類、海獣類などを中心とした海洋生物について（水圏生命分野）、陸上動植物とは異なる海洋生物の食資源としての効率的かつ持続的な生産・利用（資源生産・利用分野）、さらに海洋生物を取り巻くミクロからマクロまでの海洋環境（海洋環境分野）まで、幅広い領域を研究・教育対象としています。

PICK
UP!

研究



餌を介して得られる心電図から 魚のストレスを判定する

小島 隆人(教授)

人間と同様、魚も電極を装着すれば心電図が記録可能ですが、手を触れたり、電極を装着することは負担になります。餌を食べるだけの記録方法を開発して、人間活動から受けている影響判定を試みています。



日本沿岸域に2系統の カマイルカがいることを証明

鈴木 美和(教授)

日本沿岸にいるカマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* の中に、互いに顔つきが違う集団がいます。この集団が遺伝的にも異なり、約11万年前に分岐したことを証明しました。分化レベルや生理学的な違いを探っています。



ヒラメの性決定遺伝子を特定し 養殖産業へ貢献する

前川 茉莉(大学院博士前期課程)

魚の性別を決める遺伝子を見つけて、美味しい養殖魚を育てるための研究？ そんな研究できるの？と思い卒業研究を始め、気がつけば大学院へ。遺伝子から食卓までが繋がった研究に没頭しています。

PICK
UP!

授業



水族館論 1年次・選択・2単位

水族館関係者や水族館分野に詳しい教員によるオムニバス形式の講義です。多様な視点で水族館の世界を学ぶことができます。



水産食品化学 2年次・選択・2単位

かまぼこや干物といった身近な水産食品を例に、魚肉タンパク質の性状を把握することで、品質や加工機序の理解を深めます。

PICK
UP!

実験実習



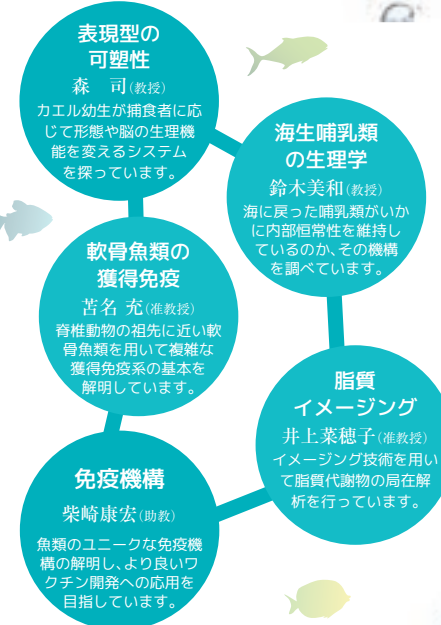
海洋基礎実習I & II 1年次・必修・各1単位

基礎実習IIは5月から6月に数班に分けて下田臨海実験所で行われ、生物採集や海洋観測を通して海洋生物学を体感します。基礎実習IIでは生物・化学実験に必要な不可欠な操作(ピペットや電子天秤の使い方、試薬の秤量)を全学生が習得することを目的としています。

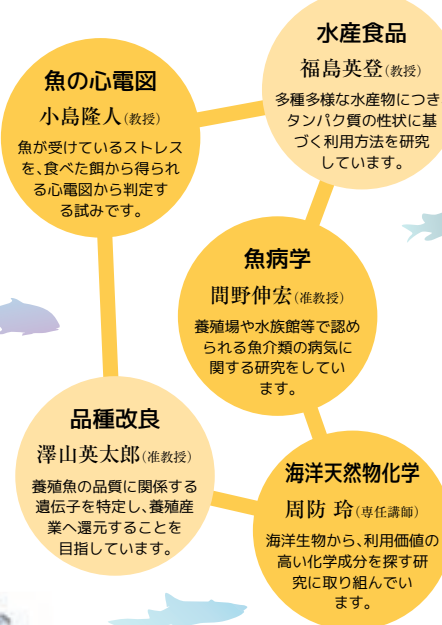


研究分野紹介

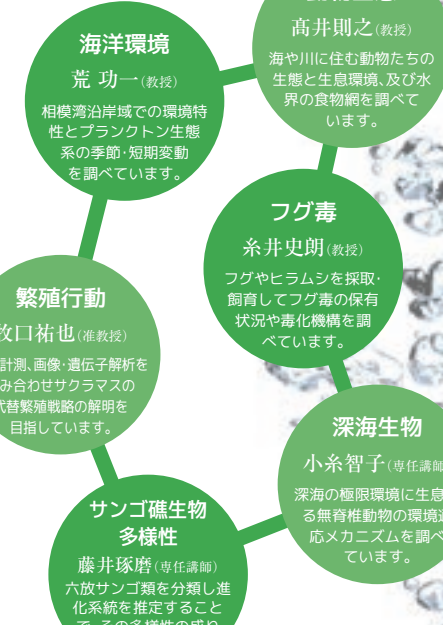
■水圏生命分野



■資源生産・利用分野



■海洋環境分野



活躍する卒業生



【新江ノ島水族館（海獣トレーナー）】

浦崎 晴楓 さん

〈2019年3月卒業〉

イルカやアシカなどの海獣類を担当しています。動物たちの健康管理や掃除などの他にショーにも出演しています。また動物たちと接する中で得たデータは、水族館外で発表することもあります。動物たちが少しでも楽しく過ごせるように、そして動物たちの魅力がお客さまに伝わるように日々試行錯誤しています。



【マルハニチロ株式会社】

川瀬 誠 さん

〈2017年3月卒業〉

チリから養殖のサーモンを買い付けして、全国へ販売しています。チリにはマルハニチロの駐在所があるので、毎日その日に生産、加工された製品のレポートをチェックしています。日本に商品が到着したら、実際に倉庫に行き自分の目で品質に問題がないか確認をしています。

下田臨海実験所（静岡県下田市須崎）

本実験所は景勝地として知られる伊豆半島最南端の爪木崎自然公園に位置し、眼前に広がる田ノ浦湾には600種を超える多種多様な魚類、無脊椎動物、海藻類が生息しています。このような恵まれた環境を活かし、本実験所を拠点とした水圏生命科学、資源生産・利用科学、海洋環境科学に関する教育・研究が展開され、主に海洋生物学科の実験・実習、卒業研究、大学院生の研究などに利用されています。また、博物館主催の理科実験セミナー（中学・高校の理科教員向け）や地域住民を対象とした学術講演会なども開催しています。



◀生物試料採集船「すざき2世」
9.1トン、120馬力。
定員32名。



▶実験室には顕微鏡をはじめ、必要な機器類が備わっており、実験・実習に利用されています。